



掘削コア科学による地球環境システム変動研究拠点

海洋コア総合研究センター 自然科学系理学部門 池原 実

■国際シンポジウム

平成 22 年度からスタートした拠点プロジェクトの前半 3 年間の研究成果をまとめるための国際シンポジウム「International Symposium on Paleoceanography in the Southern Ocean and NW Pacific: Perspective from Earth Drilling Sciences」を 11 月に開催した。シンポジウムでは、高知大学が主導して行っている南大洋および北西太平洋における地球環境変動研究を中心とした計 38 件(口頭 20 件, ポスター 18 件)の成果報告が行われ, Min-Te Chen 教授(国立台湾海洋大学), Carlota Escutia Dotti 教授(グラナダ大学), Andrew P. Roberts 教授(オーストラリア国立大学)による 3 件の基調講演と, Boo-Keun Khim 教授(釜山大学)による招待講演が行われた。また, 鮮新世から第四紀前期の地質記録として重要性が高まっている唐ノ浜層群穴内層の地質露頭見学を交えた室戸ジオパーク巡検を行った。シンポジウムと巡検を通じて, 今後の拠点プロジェクト研究の新展開を見据えた議論と情報交換が活発に行われた。



International Symposium on Paleoceanography in the Southern Ocean and NW Pacific: Perspective from Earth Drilling Sciences, Kochi, Japan, 19-21 November, 2012



国際シンポジウム室戸ジオパーク巡検 (2012年11月21日)

日程：平成 24 年 11 月 19-21 日

会場：高知大学朝倉キャンパス
総合研究棟 第一会議室
室戸ジオパーク

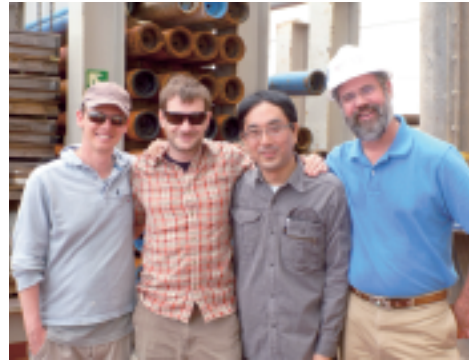
主催：高知大学研究拠点プロジェクト「掘削コア科学による地球環境システム変動研究拠点」, 高知大学海洋コア総合研究センター

コンビーナー：池原実, 岩井雅夫, 近藤康生, 山本裕二

■IODP 研究航海に相次いで参加

拠点メンバー3名が統合国際深海掘削計画 (IODP) の3つの航海に相次いで参加し、国際共同研究を新たに開始した。

- ・山本裕二助教：Expedition 342 (掘削船ジョイデスレゾリューション，平成24年6～8月，北大西洋セジメントドリフト)
- ・村山雅史教授：Expedition 337 (掘削船ちきゅう，平成24年7～9月，下北半島沖太平洋)
- ・橋本善孝准教授：Expedition 344 (掘削船ジョイデスレゾリューション，平成24年10～12月，コスタリカ地震発生帯掘削)



IODP 第342航海の共同主席研究者 (両端) と古地磁気学者 (中央2名)

■調査船「かいよう」による熱水活動探査

海底資源研究グループでは、調査船「なつしま」「よこすか」等の複数航海に参加し、伊豆小笠原海域、沖縄沿岸海域での熱水活動探査や、海底資源鉱物探査を実施した。KY-12-13航海では、東京大学生産技術研究所小型自律型海中ロボット「AE2000f」へ、開発した化学センサを搭載し、熱水活動域の無人探査を実施した。その結果、須美寿カルデラにおいて直径数十メートルほど海底の土が盛り上がり、熱水が噴き出した跡 (熱水マウンド) のように見える地形が1キロ四方にいくつも散らばっていたことを発見した。今回発見した海域は水深900mとこれまで熱水鉱床が確認されている伊是名 (1,600m) 等に比べると浅く、鉱床の開発が容易であることなど今後の詳細な観測が期待されている。



AE2000fに搭載したPHセンサ

■受賞

岡村慶准教授が、海洋調査技術誌掲載の共著論文「ADCP 曳航と AUV 潜航で観測された伊是名海穴における底層流と高反射強度アノマリ」により、日本海洋工学会「JAMSTEC 中西賞」を受賞した。

■大学院生の研究活動支援

大学院総合人間自然科学研究科応用自然科学専攻 (博士後期課程) の大学院生1名を拠点プロジェクトのリサーチアシスタント (RA) と位置づけることにより、プロジェクト研究および大学院生の研究活動の支援を行った。また、理学専攻 (修士課程) の院生2名の国際学会発表 (AOGS (Asia Oceania Geosciences Society) - AGU (WPGM) Joint Assembly, シンガポール) のための渡航費を支援した。